

〈弔文〉故田中館先生を偲びて

三井, 嘉都夫

(出版者 / Publisher)

法政大学地理學會

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政地理學會會誌

(巻 / Volume)

2

(開始ページ / Start Page)

2

(終了ページ / End Page)

3

(発行年 / Year)

1952-02-01

要であるから、萬國火山學會として日本政府にその研究を獎勵する様勤告せよと提案せられておる。惡意のある人だと、自分の研究費を調達する爲であると曲解するかもしれないが先生は日本の火山研究の必要性を信じて人の爲に書いておられる事なのである。所が法政大學へ來られてからの先生は非常に落つかれ教室の經營に専心せられ、又學生の指導に温かく且つ熱心に從はれる様になつた。從つて學生の方でも先生を慕ひ寄つた。先生は夫を何よりの楽しみとせられる様になり、病臥中も學生とだんらんし、法政大學の將來と學生の出世に就いて案じて居られた。先生は萬年青年とも言はれ、いつも元氣で頭髪も黒く、顔貌もよく、少しもじつとして居られずに活動せられ、又若い後輩と交際しても何時も同年輩の様に身を持せられていた。併し 25 年の始め、齒を損せられてから急に衰へられた。それでも努めて學務に盡され、6 月 1 日内田寛一先生の講演會の時は、胃の痛みをこらへて無理に御出席されたのであつた、が翌日遂に入院せられる様になつた。7~8 月の頃一時退院されて、秩父や三浦の實地指導に當られ、又北海道の旅に赴かれた。これで再び病氣再發、遂に逝かれたのはまことに残念であつた。大學院の創立其他先生の御力の必要な時先生を失つた法政地理教室の損失は莫大である。

故 田 中 館 先 生 を 偲 び て

三 井 嘉 都 夫

先生、上野驛最後のお別れは賑やかだつたですね。學生は誰も彼も先生と東北への巡檢の気分でお伴致したいと言つていました。事情が許すならば先生を取囲んで學問のあり方や、地理學會の活動等について親しく語つてみたいと思うのが學會員一同の念願するところです。先生、聲あるものならば、もう一度私達に教えの御言葉を下さい。

先生は終始一貫學生の指導にその精魂を盡され、法政大學地理學會創業の師として會長に任せられ學會員を懇ろに御指導下さいましたことは、會員均しく感謝に堪えないところでありますが、無情の風に誘われて呼んでも答えて下されない聲なき人となつてしまいました。

思川は灯のように私達の頭巾をかけめぐつてゆきます。

地理學會講演會でのお話、世界を股にかけて調査された先生の御講演は、まるで聞く者をしてその世界の涯に居らしめるような活きた御講演で、特に幻燈を使用しての地中海附近の説明は懐しい一年前の思出です。或は又、先生の親友と言われた内田寛一先生を招いての講演會の節には先生は嬉々として内田先生を紹介され夜の更けゆく迄研究室で會員一同は語り會いましたね。あの席、あの椅子、あの話題がまるで昨日か、一昨日のように思い浮んで参りますが、どうしてあの時に今日ある日を想像し得た事でしよう。

先生が初め入院された時一同は不安の眼で慈父と別れたような哀愁の中に數週間を送りましたが、醫師の謁診によつて七月には退院され一同の喜びは一潮深くありました。しか

しこの時は炎熱続きつような盛夏の頃でもありましたし、教授・學生一同の心の中には聊か先生の退院後を案ずるものがありました。しかし、先生は超然として一學期の講義のしめくりをなされ教室を去つてゆきました。

尤も先生は病氣中と雖も近親者の手厚い看護や、名醫の力によつて少しでも好轉の兆が見えますと、病床にありながら私達の論文をつぶさに批判して下さる熱意でありました。八月の休みには東北、北海道の旅行に深く立ち一ヶ月にもなんなんとする日子を費し、歸京すれば又豫定の行動として學生を連れて或は秩父の山へ、或は三浦半島へと巡檢を行い、その活動は全く超人間的でありました。

その過勞がたふつてか、初秋の風に誘われて又もや山手病院の二號室に入らざるを得なくなつてしまいました。秋の陽の射す二號室には先生の恢復を物語るうららかな日もありました。暮のクリスマス等には全く好轉して、必ず先生の御講義をうけたまわることが出来るであろうと、どの位一同は待ちました事でしょうか。

その期待ははずれて新春を迎えると、冷い野分は山手病院の二號室に吹いて來ました。法政地理學會の幹事が訪れた一月二十七日黄昏時には何時になく先生の御言葉は明朗で、先生は長い間、頭に入れておられた法政大學の發展のために、又地理學教室のために最後の言葉を下さいました。たゞあの時先生は「自分の願いがかなわなかつたことは残念だ」といつて言葉を閉じられました。聞くもの總て眼をあつくし、肅々として部屋を去りました。しかしその時一同の心には必ずや先生の御厚志の萬分の一にも報いる様に盡力せんとする氣配に漲つていました。

どうか先生、學校並びに學會の發展を草葉のかけで見えて下さい。私達は力の及ぶ限りの努力に依つて會を發展させ衷心より先生の御冥福をお祈りいたします。

昭和 26 年 1 月 30 日

研 究

三 浦 半 島 南 部 の 漁 業

大 和 裕 子

I. 序

我が國に於ける漁村社會は、日本資本主義社會を構成している分業體として1經濟體をなしている。この漁村社會は、一應資本制下に、近代社會を基盤として成立して居り、それは農村から分離していつた社會ではあるが別個の村落として發達して來ている。家族勞働を基盤として單純商品生産を行う漁村もその近代化の過程に於ては、地域的に自然的歴史